

口頭発表「生きものふれあい体験教室を継続実施して」

森田富美子

1 はじめに

みなさん、こんにちは。ようこそ京都へ。私は、京都市小学校生活科・総合的な学習研究会で研修部長をしています。京と私立梅小路小学校の森田富美子です。研究会として、京とし獣医師会とともに歩んできた「生きものふれあい体験教室の実施と継続」について発表していきたいと思います。宜しくお願いします。

2 実施に向けて

京都市では、平成11年4月に生活科を中心として、小学生が小さな生き物と仲良くなって欲しいとの願いから、「地球のなかまたち」という冊子作りをしました。

群馬県獣医師会が作られた「ふれあい」や中川美穂子先生の「動物と子ども」を参考にしながら、京都市十医師会、京都市教育委員会そして研究会とが一緒になって作りました。

小学校では、様々な生き物が飼育されています。子供達が動物を大切に育て、正しく飼って欲しいという思いを大切にしながら、専門的なことは獣医師の先生方に丁寧に教えていただき、仕上げる事が出来ました。この冊子は、京都市内の全小学校に配布しました。

この冊子作りをきっかけに、冊子を活用するためのひとつの機会として、生き物とふれあう体験教室を実施しようとする話がまとまりました。ふれあう動物は、学校でよく飼育されているウサギと決めました。

対象児童をどうするのか、どんな内容にすれば良いか、どんな用具を準備すれば良いのかといった具体的な内容については、何度もプロジェクトチームで話し合い、決めていきました。

子供達はウサギとふれあうことで、どんなことを不思議だなと感じたり、たずねたりするだろうかと、獣医師さんとシミュレーションを重ねました。「こんな風に答えても、子供達はわかってくれるのでしょうか。」「もう少し説明を簡単にしてもらうことはできますか。」と話し合いました。

グループの人数と獣医師さんの人数、ウサギはどれだけ必要だろうか、さらに「エサを食べているところも見せてあげたいね。」という提



案もあり、話し合えば話し合うほど、プロジェクトの準備は大変になってきました。

しかし、「子供たちが一番喜んでくれて、活動しやすいように企画していきましょう。」と、いつも獣医師会の方々が、私達を全面的に支えていただけただけで、冊子作りから1年後の平成12年から体験教室を実施することになりました。

3 取組の経過

会場は最初、運動場としたのですが、途中で雨が降ってきたり、ウサギのウンチを回収する必要があったりという様々な問題が生じ、3つめの小学校からは体育館に場所を移し、ブルーシートをフロアーに敷き、動物おしっこシートを用意してみました。



開催時刻を土曜の午後に定めたのですが、午前の診療を終えた獣医師さんは急いで駆けつけてくださいました。研究会のメンバーからも生

き物とふれあえる先生に声をかけ、「生きものサポートチーム」を組織しました。

京都市内の学校を、下京区や中京区のように支部ごとに分けて実施しています。

最初は1年～6年までの全学年を参加の対象としていましたが、どうしても小さい学年の子供が多くなり、プログラムを学年によって変えることも難しいことから、現在では対象を1, 2年生のみとしています。

生活科での生き物との出会いに活かしていきたいと考えています。この体験教室がきっかけで、ウサギが大好きになってくれる子供もたくさんいます。飼育委員ということで、5, 6年生の特別参加もあります。また、総合的な学習にもつながります。

参加申し込みのときに、獣医師さんにたずねてみたいことを記入させるようにしています。

「どうしてウサギの目は赤いのですか。」「耳が長いのはなぜですか。」「どのくらいで赤ちゃんが生まれるのですか。」「オスとメスは違うのですか」など、当日参加する子供達からの質問を、ある程度把握出来るようにしています。

そしてその質問内容を、獣医師さんや研究会の生きものサポートチームのメンバーに事前に伝えています。獣医師会からは、ウサギのレントゲン写真などの資料を提供してもらっています。身体の骨の様子を、参加した子供達がとても興味深く見えています。

さらに、参加した子供達には、ウサギと仲良くなれましたよという認定証を渡しています。

平成12年からスタートさせた「ふれあい体験教室」も、今年で6年目となりました。京都市内には17の支部がありますが、そのうち12の支部で実施することができました。今年ももちろん11月に実施予定です。

参加人数は100～150人。獣医師さんも毎回10～15人ほど来ていただいています。私達研究会のスタッフもおそろいのエプロンを準備し、獣医師さんと子供達のサポート役として楽しく活動しています。

また、参加している子供達の保護者の方々も一緒になって質問されたり、「ウサギを抱かせてください!」とおっしゃられたり、にこにこ体験教室の様子を見ておられます。ウサギを抱っこしている子供の顔はとても優しく、それを見た保護者の方が「こんなに動物好きだったのだということを、今日初めて知りました。」



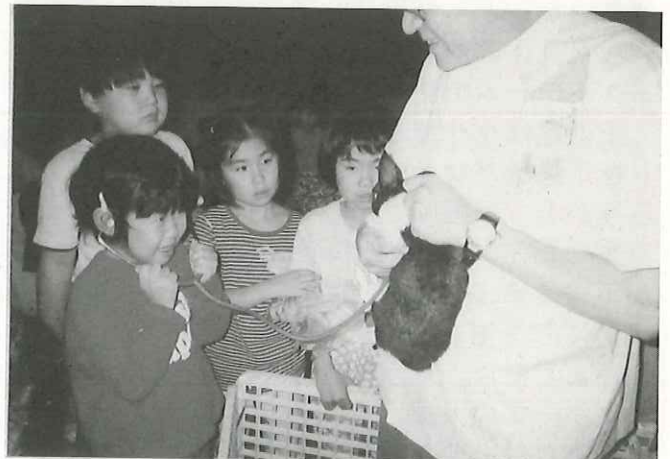
と話されることもあります。

参加した子供たちからは、「来年も僕達の学校でやって欲しいよ。また来てくれる?」とか「私の学校にはウサギがないので、欲しいなあ。校長先生に頼もうかなあ。」という声も聞かれることがあり、体験教室の着実な広がりを実感しているところです。

4 成果

体験教室に参加した子供達には、感想や絵をかいてもらい、全員の前で発表してもらっています。ここでは、「初めてウサギが抱っこできた。」「ふわふわしていて気持ち良かったです。」「また触りたいです。」「今までは何も知らなかったけど、こんな風に抱っこしてあげれば良いんだね。」「どうして目が赤いのかわかったよ。」「僕はウサギと友達になれたかなあと思いました。」などの声を聞くことができます。

他にも、聴診器を使ってトントンという鼓動の速さを聞き、驚く子供達の姿が見られます。これを保護者の方にも体験していただくと、子供達と同じように驚き、にっこりとしてくださいます。



自分が持って来た人参やキャベツを、ウサギが目の前でバリバリと音を立てて食べてくれると、会場は子供達の歓声が響きます。

体験教室の後は、スタッフが集まり、京の活動を振り返る反省会を必ず行なっています。

また、P.T.A との連携事業として「みやこ土曜塾」という形式でも体験教室を立ち上げることが出来ました。これは、今まで私達がやってきた体験教室と同じプログラムで、今度はP.T.A が運営するというものです。

子供達の名札作り、グループ作り、質問のまとめといった、用具等の準備は私達と一緒に行ないます。またウサギの手配は私達がします。

体験教室での子供たちの様子を、たくさんの保護者の方々に見ていただくことは、とても効果的だと考えています。

獣医師さんも、できるだけ地域で開業されている方々に来ていただくようにしています。

「あの獣医さんは、うちの犬が病気になったときに診てもらったことがあるから知っているよ。」「今度ウサギで困ったことがあったら、相談に行けるね。」と、地域の獣医師さんのとの関わりも出ています。

また先生を対象とした「生き物指導講座」を毎年夏休みに、研究会が中心となって実施しています。

体験教室とプログラムは同じですが、ウサギ、ニワトリ、ハムスター、インコ、ザリガニ、カタツムリなど、種類をたくさん準備しています。これも毎年 100 人近い先生方の参加があり、「初めてウサギを抱いた。」という声も聞かれます。

この指導講座では、子供達の体験教室での質問やその時の様子などを、獣医師さんから伝えてもらっています。これも大切なことだと考えています。

5 課題とまとめ

子供達が生き物とふれあうことは、とても大切なことです。子供達は生きものが大好きなんです。生命の尊さを学びながら、生き物の社会性や環境についてもっと深く考えていけるように、これからもこの体験教室を継続していきたいと思っています。そして、飼育活動の窓口として、獣医師会との連携をより深めていきたいです。

これで私の発表を終わります。

(京都市梅小路小学校 教諭

京都市小学校生活科・総合的な学習研究会
研修部長)

